

道路政策の質の向上に資する技術研究開発 平成19年度 中間評価について（概要）

- 1．目的
 - 2．中間評価の対象
 - 3．中間評価の視点及び基準
 - 4．提出書類及び期限
 - 5．中間評価の体制
 - 6．中間評価の手順
 - 7．評価結果の通知及び公表
- 別紙 1 評価分科会委員（案）
- 別紙 2 研究評価会 議事次第（案）

1. 目的

中間評価は、新道路技術会議において採択され、実施されている研究課題について、研究課題の適切な実施を図るとともに、次年度以降の研究費の適正化に資することを目的。

2. 中間評価の対象

複数年度にまたがる研究課題を対象とし、最終年度を除く毎年度、評価。

3. 中間評価の視点及び基準

(1) 中間評価の視点

(1 - 1) 1年目の研究課題を対象とした中間評価の視点

中間段階での成果を評価するのではなく、研究の見通しや進捗の評価を目的とする。

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階（A～D）で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の見通し	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制が適切となっているか。
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、研究は適切に進捗しているか。

評点	説明
A	適切である / 順調である
B	概ね適切である / 概ね順調である
C	やや適切でない / やや順調でない
D	適切でない / 順調でない

(1 - 2) 2年目の研究課題を対象とした中間評価の視点

研究の進捗に伴い、研究成果の見通しの評価に重点を置く。

(特に1年目の評価結果が芳しくなかった研究については、慎重に評価を行う。)

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(A～D)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

評点	説明
A	順調である/ 大いに期待できる
B	概ね順調である/ ある程度期待できる
C	やや順調でない/ あまり期待できない
D	順調でない/ 期待できない

(2) 中間評価の基準

中間評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続の妥当性について4段階(A～D)で総合的に評価。

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上 推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的に達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【参考】中間評価シート(1年目の研究課題対象(左)、2年目の研究課題対象(右))

【様式1】 - 1

中間評価シート(1)(1年目の研究課題対象)

	評価分科会委員	
--	---------	--

番号	研究課題名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の見通し	A 適切である	
	B 概ね適切である	
	C やや適切でない	
	D 適切でない	
研究の進捗状況	A 順調である	
	B 概ね順調である	
	C やや順調でない	
	D 順調でない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項有り)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

2. 特記事項
(計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

【様式1】 - 2

中間評価シート(2)(2年目の研究課題対象)

	評価分科会委員	
--	---------	--

番号	研究課題名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	A 順調である	
	B 概ね順調である	
	C やや順調でない	
	D 順調でない	
研究成果の見通し	A 大いに期待できる	
	B ある程度期待できる	
	C あまり期待できない	
	D 期待できない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項有り)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

2. 特記事項
(計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

4. 提出書類及び期限

(1) 提出書類

各研究課題の研究代表者は、以下の書類を提出。

「研究状況報告書」¹

「研究開発年次計画・経費に関する調書」²

【追加提案】

1: 研究状況報告書に外注項目()を追加。

2: 上記 の修正にあわせ、様式に外注の記入項目を追加。

(2) 提出期限

平成20年1月31日(木)(必着)

【研究状況報告書の記入項目・内容】

記入項目	1年目の研究課題	2年目の研究課題
研究代表者	氏名、所属、役職	
研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ	
研究経費	各年度の委託額/計画額	
研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職	
研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標	
これまでの研究経過	研究の進捗状況	
	研究計画、実施方法、体制の妥当性	
研究成果の発表状況		国際会議、学会等の発表状況
研究成果の活用方策		成果の活用方法・手段等
特記事項	研究の見通し・進捗の自己評価等	成果の見通しの自己評価等
研究遂行上の問題点等	問題点及びその解決方法、見通し、要望等	
次年度以降の研究計画	H20年度(以降)の研究計画・方法、 <u>外注の有無</u>	
研究遂行における外注の実施	<u>外注の目的、必要性、範囲等</u>	

～ は非公表

5. 中間評価の体制

評価対象課題(6課題)をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(P.6(別紙1)参照)。

各分科会は、新道路技術会議委員(6名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。

各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

評価分科会委員(案)

別紙 1

分科会	領域	タイプ	採択年度	委託研究テーマ	委託先	研究代表者	評価分科会	
							分科会長	委員
ソフト分科会	1		H18	道路の整備・維持管理費用、環境費用を考慮した受益者負担の仕組みに関する研究	一橋大学	一橋大学大学院 教授 根本 敏則	家田委員	太田委員 川嶋(弘)委員 佐々木委員 竹内委員 中越委員 吉川委員 道路経済調査室 担当官 国総研道路研究官
	2		H18	駐車デポジット制度による受容性と柔軟性の高い都心部自動車流入マネジメント施策の研究と実証	名古屋大学	名古屋大学大学院 教授 森川 高行		
ハード分科会	7		H18	センサーネットワークを利用した次世代斜面防災システムの構築	立命館大学	立命館大学 防災システム研究センター 副センター長 深川 良一	三木委員長 代理	赤羽委員 小澤委員 川島(一)委員 柴崎委員 吉田委員 国道・防災課 担当官 国総研道路研究官
	7		H19	凍結融解作用を受ける斜面の崩壊予知・災害危険度評価システムの確立	北海道大学	北海道大学大学院 教授 三浦 清一		
	7		H19	津波による道路構造物の被害予測とその軽減策に関する研究	九州工業大学	九州工業大学 教授 幸左 賢二		
	8		H19	各種道路橋床版における疲労損傷の非破壊検査システムに関する研究開発	大阪大学	大阪大学大学院 教授 鎌田 敏郎		

H18の評価分科会の構成を参考に作成。網掛け部分は1年目(H19採択)の研究課題を示す。

6. 中間評価の手順

中間評価の手順は、次のとおり。

【修正提案】

前回委員会での議論を踏まえ、書面による評価を簡素化し、ヒアリングによる評価を充実。

書類の事前査読(書面による評価) (2月上中旬)

【書面評価簡素案】

- ・事前査読は従来通り実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- ・特記事項(委員からの指摘等)がある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

研究評価会の開催(ヒアリングによる評価) (2月下旬)

【ヒアリング充実案】

- ・分科会毎に研究評価会を開催するが、ヒアリングによる評価をより充実させるため時間を延長[報告15 20分、質疑15 20分、審議5 10分](P. 8(別紙2)参照)。
- ・分科会各委員は中間評価シートを作成。
- ・中間評価シートを基に、中間評価(案)を作成するための審議を実施。

中間評価(案)の作成 (3月中旬)

研究評価会后、分科会長は中間評価(案)を作成。

中間評価の決定 (3月下旬)

新道路技術会議において中間評価(案)を審議し、合議により中間評価を決定。

7. 評価結果の通知及び公表

中間評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書と併せて公表(3月下旬)。

研究評価会 ハード分科会 議事次第(案)

日時：平成20年2月下旬
13:00～17:00

場所：

1. 開 会
2. 挨拶、実施方法の説明(13:00～13:10)
3. 研究報告(1課題あたり40分)
 - 1) 研究課題1(13:10～13:50)
 - 2) 研究課題2(13:55～14:35)
 - 3) 研究課題3(14:40～15:20)
 - 4) 研究課題4(15:25～16:05)

～ 休 憩 (10分) ～
4. 中間評価の実施(16:15～16:55)
 - 1) 研究継続の妥当性評価について
 - 2) 中間評価(案)のとりまとめについて 等
5. 閉 会(17:00頃)

ソフト分科会については、研究課題数が2課題となるため、15:00過ぎ頃の閉会を予定。

20分報告(パワーポイント使用予定)
20分質疑応答
10分審議
評価・準備用に発表の間に5分確保